

小学校英語とデジタル教科書・教材のこれから

4月から使用開始となる英語教科書には、多くの「聞く」活動が位置づけられています。

『We Can!』のデジタル版のように、教科書と連動したデジタル教科書や教材の活用に期待される先生方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

光村図書では、小学校英語教科書『Here We Go!』準拠のデジタル教科書をはじめ、さまざまなデジタル教材を豊富に取り揃えています。これらの使い方や学習効果について、長年にわたり小学校英語教育に携わってきた、東 仁美先生(聖学院大学教授)におうかがいしました。

1 小学校英語では、なぜ音声を聞くことが活動の中心になるのでしょうか。

言語は、【インプット→気づき→理解→インテイク(内在化)→統合→アウトプット】という流れで習得されるといわれています。言語の習得はまず大量に聞くこと(インプット)からはじまり、聞くことによって作られた言語データの中から、言葉の意味や使い方のルールに気づいたり理解したりしながら、発話などのアウトプットにつなげていくわけです。このプロセスは逆三角形の図式となります。つまり、話すことができる量は、聞いた量に比べて、かなり少なくなってしまうのです。

そこで、たくさん聞くことが必要になるわけですが、何でもいいから聞かせればよいというわけではありません。能力よりも少し上のインプットを与えることが大切だといわれています。授業では、音声を聞かせる前にキーワードやヒ

ントを与えるなどし、簡単すぎないように、そして少しかだけチャレンジングになるようにコントロールしてあげてほしいですね。

2 音声だけの教材ではなく、映像教材を用いることで、どのような効果がありますか？

動画や写真があることで、子どもたちの想像力がかき立てられ、音声だけの教材よりも言語が使用される状況や場面が推測しやすくなります。実は、言語の習得において、この「推測する力」はとても重要です。第二言語の習得には、あいまいな状態を受け入れられる能力を持つ学習者が有利であるといわれています。つまり、わからない部分があっても推測しながら理解しようとし、全体として「なんとなくわかる」と受け入れる力が重要だということです。その点で、デジタル教科書 Here We Go! のアニメーション(※1)は、少し長めの動画ですが、子どもにとってわかりやすい場面設定なので、インプットのための教材として優れているといえます。

もう一つ、「チャンツ」の活動においても、映像を用いることによる効果が期待できます。例えば、デジタル教材 リズムマスター(※2)を活用すると、キャラクターの動きに合わせて自然と体を動かすことが促され、上手に英語らしいリズムが取れるようになります。

3 大きな画面をクラス全員で見る形式と、タブレット端末を個別に使う形式では、どのような使い分けが必要ですか。

活動内容によって使い分けるといいでしょう。例えば、映像を見てどんな話をしているかを推測するような活動では、一斉に視聴して、全員で意見を出し合う形式が向いています。



※1 小学校英語デジタル教科書 Here We Go!
5年 Unit 2 アニメーション

一方で、知識・技能の習得にかかわるもの、例えばアルファベットに慣れる活動や書く活動では、一人1台端末があると、学習機会が増やせます。デジタル教材 アルファベットマスターは、個別の学習にも効果的な教材だと思います。ゲーム性が高く、繰り返し挑戦させることで、文字認識の力が向上する効果が期待できます。また、例えば4線上にアルファベットを書く活動では、すぐに画面上に正しい書き方が表示され、その場で訂正ができるので、添削にかかる教師の負担を減らす効果もあります。

ただし、個別に行う場合には、教師の指示の出し方がポイントになります。「声に出しながらやろうね」「解答をきちんとみようね」など、目的や手順を示し、しっかりした環境づくりを行ってから挑戦させ、最後はクラス全体で振り返ることで、個別学習が生きてきます。「一斉」と「個別」を行き来することで、学びを深めていくように心掛けるといいですね。

4 モジュール(短時間)学習や、授業のウォームアップでデジタル教材を使う効果を教えてください。

モジュール学習を行うメリットとしては、繰り返しによる語彙や表現などの定着が図れることと、インプットの量が確保できることが挙げ



※2 小学校英語デジタル教材 リズムマスター
Lesson 1 “How do you spell it?”

られます。そのため、使用する教材は、繰り返し飽きずに使えるものがいちばんといえます。ここで、デジタル教材ならではの強みが生きてくるのです。

例えば、アルファベットマスターでは、アルファベットの歌を、A～Zだけでなく、Z～Aの逆バージョンで流す、歌の途中(例えばJ)から流すなどのカスタマイズ再生が可能なので、教師がクラスの実態に合わせてさまざまなメニューを組むことができます。授業の始めにウォームアップとして声を出させることで、子どもたちを英語モードにギアチェンジさせる効果も期待できますね。

デジタル教科書・教材を使うことに抵抗を感じる先生もおられると思います。しかし、子どもたちが飽きずに取り組めるためのさまざまな仕掛けは素晴らしく、「楽しみながら学ぶ」という日本の小学校英語が掲げている目標の面でも、デジタル教科書・教材の貢献は大きいと思います。



東 仁美
ひがし・ひとみ

聖学院大学欧米文化学科教授。小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)理事・トレーナー検定委員。令和2年度から使用開始となる、光村図書 小学校英語教科書『Here We Go!』編集委員。デジタル教材「リズムマスター」「アルファベットマスター」制作協力者。

デジタル教科書・教材の詳しい情報はここから -->

